

# 京和の (最後のご挨拶) お国自慢



李 京和  
(イ キョンファ)  
地域おこし協力隊として活動中。韓国語講座や韓国料理教室などを行っている。

## 肝付町を離れながら

2018年3月18日は私の兄に会う為、初めて内之浦に足を踏み入れた日でした。真夜中になって着いたので、内之浦の第一印象は私の心と同じく漆黒のものでした。

けれども翌朝、兄と一緒に内之浦の浜辺へ散歩に出た途端、最初の印象は失われ、美しい自然に安らぎを得る事が出来ました。誰もいない浜辺に兄と2人で座って長い間、波の音を聞いた事を、いまだに昨日の事のように鮮明に覚えていています。

そして次々に兄の安否を確認しに來られた内之浦の友達を見て、兄がどうしてここに住む事になったのか理解できました。

美しく豊かな自然とそれに似た温かい情を持った人々がここに存在したからだという事を。

急激に衰弱した兄の姿を見守ることしかできなかった兄との最後の一ヶ月は、私にとって、一日と共にさらなる絶望を味わわせる日々でした。しかし、毎日新しく咲く花々と、緑に染まる山や野原、夜空にイルミネーションのように輝

く星を見ながら、希望を新たに刻みました。

何より兄のために忙しい時間を割いて会いに来て下さったり、丁寧に見守ってくださった友人たちのおかげで、兄は人生の最期を心が通じたお友達に囲まれながら去る事ができました。

なので、肝付町は私の人生の中で一番悲しい記憶を持っているところであると同時に、一番温かい経験をしたところでもあります。

兄は最期までこちらの方々と韓国との交流に力を注いだので、私も兄が残した遺志を継ぎたい気持ちで、地域おこし協力隊員として2019年4月から肝付町の住民になりました。

地域おこし協力隊員として3年間、私はブログとSNSを利用して韓国に肝付町を紹介し、韓国からの訪問客に町の案内と通訳をしたり、新しい観光コースとウォーキングコースを企画したりしました。他にも「肝付町日韓交流推進協議会」の方々と共に、韓国の青少年と肝付町の青少年のスポーツ交流や韓国料理講座などを行いました。

個人的には色々な機会に住

民の皆さんに会って肝付町についてもっと学び、経験できたのが一番記憶に残っています。コロナの影響で思い通りにはできない事もあり、任期を終えることになったのが残念ですが、韓国に帰っても私の第2の故郷、肝付町のために力になっていきたいと思

います。皆さん、これまで本当に本当にありがとうございました。また日本と韓国を自由に往來できるようにしたら会いに来ます。その時までお元氣でお過ごし下さい。

李 京和



## 「2021年度 日韓・私の友人、私の隣人を紹介します」公募展 肝付町内之浦 日韓交流推進協議会 受賞

12月17日に「2021年度 日韓・私の友人、私の隣人を紹介します」公募展の表彰式が韓国ソウルで行われました。これは、韓国外交部（日本の外務省に相当）が、日本と韓国の交流エピソードを募集し審査するもので、両国で150件の応募のなかから、肝付町地域おこし協力隊の李京和さんと肝付町内之浦日韓交流推進協議会の取組み事例など10件が選ばれ、表彰されました。

リモート通信で肝付町から参加した李さんは、「肝付との交流が好きだった亡き兄の遺志を引き継ぐために来日しました。少しでもお役に立てればと、皆様の支えをいただきながら3年間取り組んできた結果が母国の韓国からも評価されてうれしいです。」と述べました。

受賞作品は、公式ホームページにエピソードカードとして掲載されています。ぜひご覧ください。



「日韓・私の友人、私の隣人を紹介します」公式ホームページ ▲

